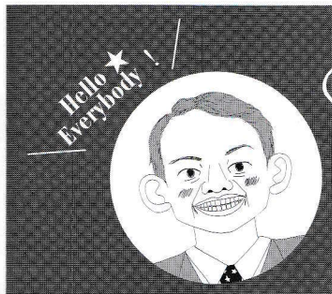


ウイングおじさんの

“ちょこっと”講座!!

WING OJISAN

ダンスの先生よりも物知りになっちゃう!? 最終回

最近、お腹のお肉が気になって仕方がないウイおじ。鬼のように歩きまくってやる! と意気込み、万歩計を買って家路につき袋を開けると…そこには万引き防止器具が付いたままの万歩計が。「店員め、外し忘れたな。。」と思い、軽くプチッと外した瞬間、ピーピーピーピーピー! 耳を突き破るくらいの爆音が発生。どうやっても音が鳴り止まないので、これでもか一! と、その機械を賞味期限切れの肉マンの中に IN ! それでも音が鳴り止まないので、庭に穴を掘って地中深くに埋葬!! その一部始終を見ていた奥様からは、とっても冷ややかな目で見られたそーな(そりゃそーだ by 編集 T)。

“ちょこっと” 1 時間目

ちょこっと★Q&A

さあ! ウイングおじさんに聞いてみよう!!

Q1: タンゴにおける男性後退時のフットワークについて教えて下さい。

—— 57号のコモン・フォールトの説明の中で、「タンゴでの後退の時、前の足はヒールになる」と書いてありましたが、左サイド・リードが掛かった時の前の足はヒールが上がるのではありませんか? (浜松市の本多さん、山口市の山元さん、新居浜市の堀さん)

Answer

まず、皆さんを混乱させてしまったことをお詫び致します。

お便り有り難うございます。さて、タンゴにおける「男性後退時のフットワーク」についてですが、皆さんのご指摘通り、そしてテキストにある通り、男性が左サイド・リードを使って左足後退する場合は、「前の右足のヒールが床から離れる」です。57号では、あえて左サイド・リードと記載しないことで「左サイド・リードを使わない」ケースを思い浮かべて頂きたかったのですが、それが混乱を招いてしまったようです。大変失礼を致しました!

正確を期すために両テキストの説明を書き出しますと、次のようになります——

(1) 男性の左サイド・リードでの左足後退
→ 前の右足ヒールがフロアから離れる。
(2) 男性のその他の後退 → 前の右足のトウがフロアから離れる。

(3) 女性の後退 → どちらの足で後退する時も、前足のトウがフロアから離れる。
——です。

【メモ】基本フィガーで男性が左サイド・リードを使うのには、ロック・ターン、PSS リバース・ターン、左足のロック・バック、オープン・リバース・ターンのレディ・イン・ラインなどがあります。

堀さんはお便りの中で、「自分の考え方としては記事の説明に賛成」と書いて下さりました。私自身も、左サイド・リードを使うフィガーでも右足のトウが上がる方が踊りやすい場合が多々あります。なぜそうなるのか、お正月休みの間に色々考え分析してみました。

【ケース1】後退時、左方向に他のカップルがいるため、ブルースのように真っ直ぐ下がってしまう。
→ こうした場合は、この踊り方で良いと思います。

【ケース2】左サイド・リードの意識が欠けている。あるいは、やっているつもりでもサイド・リードのかけ方が足りない時。
→ タンゴ・ポジションになった時、上半身がブルースの時と同じ向き、つまり、おへそがつま先の方に向いた形にあり、そこから後退に入ろうとすると左サイド・リードが使いにくい気がします。動き始める前のその形自体は問題ないと思いますが、次のアクションに入る時、右膝を使って上体の絞りを作りながら後退(前進も)すると、左サイド・リードが使えて良い気がします。ダンサーによっては、タンゴ・ポジションになった時、上体がつま先の向きより左に絞る形を作るカップルを見かけますが、それも正しいと思います。

【ケース3】左サイド・リードそのものが使いにくい。
→ 個人的には左サイド・リードを意識しすぎると、変な左回転を起こして体が開いてしまうことがあります。そこでこの対処法として、サイド・リードではなく「ショルダー・リードを使う」と考えてみると、大変踊りやすくなりました。つまり、左サイドを“忘れ”、“左ショルダー”を連れて行くと考えるのです。

さて、以前使われていたショルダー・リードという言葉は、現在の教本では全てサイド・リードに変更されています。ところが、このサイド・リードの問題を考えていた時、昨年のUKレクチャーの中でピーター・エグルトン氏が「サイド・リードに統一するのは反対だ。サイド・リードを使うのはワルツのナチュラル・ターン2歩目の時の様な場合で、フォックストロットでそれをやってしまうと大変なことになってしまう」と話していたのを思い出しました。
そこで、ショルダー・リードを意識してフォックストロットを踊ってみると、とても良い感じに踊れたので、タンゴにも応用してみた所(エグルトン氏はタンゴには触れていませんでしたが・・・)、今までにないくらい自然に後退のステップができました。あくまでも私のレベルでの話ですが、もしかすると上手くいくかも知れませんので試してみて下さい——『左足後退時には左ショルダーを連れて行く』です。上手くいかなかった時はごめんなさいです。

【メモ】エグルトン氏のレクチャーは、ダンスウイング55号の付録DVDに収録されています。DVDスタートから約50分辺りでショルダー・リードの事に触れています。

少々宣伝っぽくなりますが、映像で勉強したい初中級の人には、今回の話題の動きを深く理解するために、スタジオひまわりから出ている、マーカス&カレン・ヒルトン MBE の「シンプリー・ザ・ベスト、パート1（タンゴ）」をお薦めします。同じく、ミルコ&アレッシアのDVD「王者のステップ（タンゴ）」には解説こそありませんが、膨大な数のフィガーが12個のグループの中で扱われていて、男性が左サイド・リードを使うフィガーと使わないフィガーがよく見て取れますので、これもお薦めです。

Q2：男性のスリー・ステップの１歩目は左足？ それとも右足？

—— 57号のコモン・フォールトの説明の中で、「スリー・ステップの男性1歩目左足はヒールでライズがありません」とありましたが、1歩目は右足と理解しています（JBDFの資料より）。他団体の別の定義づけもあるのでしょうか？　教えて頂ければ幸いです。（新居浜市の堀さん）

Answer

こちらも書き方が不十分でした。m(__)m

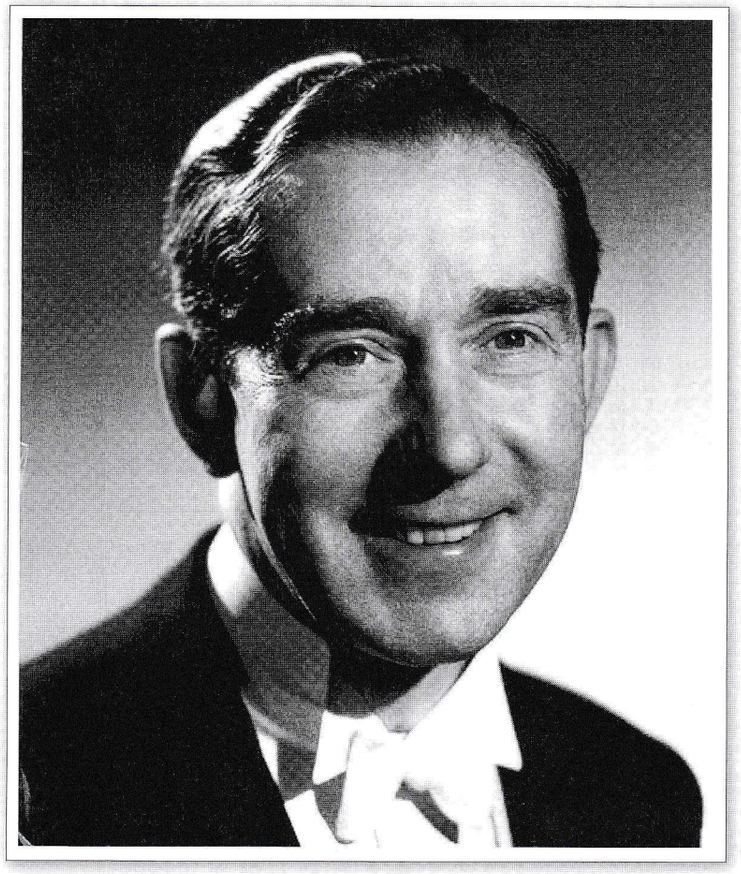
現在ダンス界では 2 種類のスタンダード用テキストが使われており、一つが「ボルテク（ボールルーム・テクニック）」です。このテキストの男性のスリー・ステップは
「右足(HT)——左足(TH)——右足(HT)」
の3歩になっていますから、ご指摘のように、ボルテクにおけるスリー・ステップの1歩目は右足ですから、私の説明は正しくないことになります。

ダンス界にはもう一冊のテキスト「テクニック・オブ・ボールルーム・ダンシング（ガイ・ハワード著）」があり、私はこれを頭に描いて原稿を書いていたのですが、このテキストでは、1 歩目が男性左足から始まる
「左足(H)——右足(HT)——左足(TH)」
で構成されています。この1歩目左足 (H) は、ボルテクではフェザー・ステップの4歩目やリバース・ターンの7歩目に当たりますので、ボルテクで勉強されている人達のことも考え、57号では「リバース・ターンからスリー・ステップを踊る時の7歩目」と書いた方がより的確でしたね。

【参考】ボルテクの男性のフェザー・ステップ4歩目は左足(H)ですから、そこからスリー・ステップを続ける場合は良いのですが、リバース・ターンに続ける場合はフェザー・ステップの4歩目とリバース・ターンの1歩目が重なり、フットワークはリバース・ターン1歩目の（HT）が使われます。このように先行フィガーの最終歩が後続フィガーの1歩目と重複する場合がありますので注意が必要です。

今回はご指摘を戴いたお陰で色々勉強できました。有り難うございます。

残念ですが今回が最終回となってしまいました。短い間でしたが、熱心におつきあい下さり有り難うございました。またどこかでお会いできることを願っています。（ウイングおじさん）



DANCE ICONS

一枚の写真から

第5回 アレックス・ムーア

アレックス・ムーアMBE(1901－1991)を語る ——

**日本のダンス界に大きく寄与した彼の名は、
名著「ボールルーム・ダンシング」や「リバイズド・テクニック」を通してのみならず、
1978年来日本で開催されている「アレックス・ムーア杯」としても愛され続けています。
彼が発行した“MLS（マンスリー・レター・サービス)”は、
1982年、ジェフリー・ハーン氏とペギー・スペンサーMBEが共同で創立した
ハーン&スペンサー社（現DSI社）に引き継がれ、“レター・サービス”と名を変えて
2004年まで続き、その後再び名を“コリオグラファー”と変え、
2008年の廃刊になるまで世界中のダンサーに愛され続けました。
今回は1982年10月に発行されたレター・サービス第1号の復活版から、
ムーア氏を偲ぶ特別な記事をご紹介しましょう。**

（復活版提供：英国DSI社　　写真提供：JBDF資料室）

アレックス・ムーアMBE

01

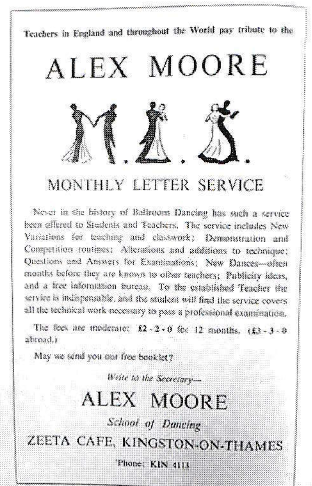
アレックスが後の妻となるパット・キルパトリックさんと出会った1932年、この年に彼は、NATDの会長に選任されました。さらに同じ日、ISTDのボールルーム支部委員にも選ばれたのです。そして同年、南アフリカを訪れたアレックスは、現地の教師たちからダンスの最新情報がなかなか入手できないという不満の声を聞き、それがきっかけとなり、創造力に富む彼の頭からマンスリー・レター・サービス（以後MLS）が誕生したのです。最初は小規模でスタートしたMLSでしたが、やがて世界中に広まり、日本語、中国語、イタリア語、ドイツ語にまで翻訳されるようになったのです。

1935年に発行した彼の「Ballroom Dancing」は今日迄に25万部以上売れています。彼が長年担当していたマンチェスターでの技術講習会には、毎年平均200人以上もの参加者が集りました。1937年にパットさんと結婚して以降は、イギリス、オランダ、デンマーク、ノルウェイ、ドイツ、オーストリア、フランスなど、様々な国にデモンストレーションやレクチャー、コングレスをしにまわっていました。また、ロンドンのアレキサンダー・パレスにあるスタジオからTV出演し、ダンスのレッスンも数年間していました。

アレックスは、イギリスチームがデンマークに遠征する際のキャプテンを25年以上も任されていました。彼にとってこの遠征は一番楽しいものでした。というのも、彼はツボルグ社（デンマークを代表するラガービールメーカー）のナイトの称号を授かっていたからです。また、ダンサーの中で、もっとも活躍した人に贈られるカール・アラン賞を4度も受賞しています。1947年にはISTDのボールルーム支部議長にも選ばれました。翌1948年には、初めてのワールド・コングレスがブラックプールで開かれ、その席でアレックスはICBD（国際ダンス評議会）の設立を提案します。そしてそれが実現したのは、1950年、エディンバラでの事です。

1959年、アレックスはイングリッシュ・スタイルのダンスを教えるため、私費で米国を訪れています。1960年に最初の教師認定試験が行なわれた時、再びアレックスの創造力に富む才能が力を発揮しました。MLSの中にその広告を出したのです。その結果、非常に多くの認定試験を行うことになり、1961年にはツアーが組まれました。そうしたツアーの成功が後のISTDアメリカ支部設立へと繋がったのです。

1976年、アレックスはボールルーム界での功績を称えられ、女王陛下よりMBE（大英帝国勲章のひとつ）を授与されました。それは、ダンス教師向上の為に人生を捧げてきた彼にとって、実にふさわしい勲章でした。



夫、アレックス・ムーアを語る

パット・ムーア (Pat Moore 旧姓 Kilpatrick)

02

ここからは余り知られていない彼との思い出をご紹介しましょう。もしかすると、ケチな印象を与えてしまうかもしれません。でも、決して困っている友達を見過ごす様な人ではありませんでした。

アレックスは、ダンス以外では陶磁器の骨董品に思い入れが深く、時に海外で、「報酬は陶磁器の骨董品でいかがですか？」と尋ねられると、二つ返事で了承したものです。ある仕事で、今までにないほど美しい骨董品を戴き、それを空港で止められた時「税金を払えだって？　だいたいこんなものいらないよ。やるよ！」と言い、最終的には税金を払わず、しかも品物も持って立ち去った事があります。

彼はMBEに感激していましたが、彼にとっては、名誉あるダンサーにのみ贈られる、カール・アラン賞の方がより意義深いものでした。

アレックスが南アフリカで一年間仕事をしていた時、現地の教師達の言葉をきっかけに、MLSのアイディアを思いつきます。そのアイディアに配信希望者はすぐに集まりました。彼は、今まで一度もMLSの発行を休んだことがありません。戦時中も、父親の具合が悪くなったという事を理由に自宅に帰り、その度にMLSを作成していたものです。

それから、ハネムーンではこんな事があったのです。私たちは5日間のハネムーンをブライトンで過ごす予定でしたが、まさかアレックスがホテルの予約をしていないとは知りませんでした。4月で空き部屋はいくらでもある時期でしたが、運が悪いことに大きなサッカーの試合があってどのホテルも満室。すると彼は警察署に駆け込み、「助けてくれないと僕らの結婚は一日で破綻してしまう」って頼み込んだのです。結局、私たちの素敵なハネムーンは高齢者用宿泊施設で過ごすことになりました。ハネムーンなどすっかり忘れ去っているような入居者たちは、歓迎してくれましたけどね。

アレックスはヘビースモーカーでしたが、マッチは1日に1本しか必要ありませんでした。1本目のタバコに火をつけると、次のタバコへ、またその次へと初めの火を絶やさないのです。彼と私がデモで各地を回っていた頃、片道ずつ運転を交代し、運転しない人がタバコに火を点ける係でした。ある晩、タバコを切らした為、小さなお店に立ち寄り、一度に200本ものタバコを買ったのです。小さなお店にとっては大きな注文の筈ですが、車に戻ってきたアレックスは不可解そうな顔をして、「店主にそれだけで足りるのか」と聞かれたと言うのです。アレックスを見ると無理もありません。火をつけようとしているタバコを2本、口にくわえていたのですから！　70歳代でアレックスはアジア風邪にかかり、タバコをやめると言いました

you remember the sort of thing!! During the past 24 hours I had discovered that his very important engagement was playing in a Snooker match, he had MY car, and I was travelling on the bus!! Needless to say I did not share their enthusiasm!! However, in true Alex style, he asked me to go to a Dinner Dance at the Savoy with him, to repay my kindness. I never went to South Africa – I went to Kingston-on-Thames.
Alex had already started the Monthly Letter Service when I him, but it was not long before he introduced me to the delights of the Roneo machine, the rubber thumb and the stapler.
I have read in many articles that Alex and I danced together competitively. He had in fact, given up competing long before we met. We did, however, start demonstrating together, and found that we made a good team – dancing with Alex was quite instinctive for me. Mind you, there were probably lots of lady dancers out there who would have felt the same, and done as good a job as I did.
But I had a secret weapon!! When Alex discovered my ability on the Roneo, the way I could use the stapler without wasting any, my agility at folding paper, and putting it into envelope – he was impressed.
BUT when he discovered that my finger could make that rubber thumb pick up foolscap paper faster than any other finger in the Universe – that was it!! He proposed!!

PAT HOPE
(WHO?? – Alex Moore's Daughter) 03

A friend has a large mole on his back. Don't stop reading – all will become clear!! The other day his daughter was telling me that it came as quite a shock to her when she grew up to discover that all men did not have the same!!
So it was with me.
Until I went to boarding school and started mixing with the "ordinary" populous, I assumed that everyone's Dad used to frequently get into full evening dress in the middle of the afternoon and disappear for the night. I thought that most Dads sat at the dining table once a month bashing away endlessly at an old typewriter. I thought it quite normal that they would call every now again for their wife and start dancing round the lounge with her – then rush back to the typewriter. And didn't every little girl go to big places where people spent hours twisting and twirling around the floor; and then weren't they all asked to present a nice bouquet to someone they had never met? Surely everyone was allowed to stay up late to see their Dad on the TV!! Sometimes I think this was so I could remember what he looked like – apart from the monthly typewriter thumping, he wasn't around much. I remember he actually filled his Passport up before it ran out and had to have two stuck together!!
Anyway, what was obviously the norm was that after the typewriter thumping, everyone's Dad disappeared for about three days. This was when the real work started!! Firstly the kitchen was taken up with this huge machine that produced reams and reams of foolscap paper. Then the lounge was taken over by a huge tressle table and the paper placed on it in eight piles. Mummy would then place the rubber thumb on her magic finger and many hours later the paper was now huge piles of eight paged criss-crossed newsletters. As soon as I was able to reach the table I was allowed to take part in this part of the proceedings. Then the straightening and stapling would begin – this I was allowed to do virtually from birth!! If we spoilt any staples they would be hidden away at the bottom of the bin so Alex could not spot them on his eventual return!! Now all the cushions were removed from the three piece suite which was turned into a giant paper pressing machine. The newsletters were folded and placed side by side in the chairs and the sofa to squeeze them together properly. By the time the folding had been done the first ones were nicely squeezed, making envelope filling easier!! The finished envelopes would be counted into certain numbers for certain countries, tied up with string and placed in the hall awaiting collection by the Post Office. Alex would return!!
I must be fair – Alex always paid me for helping Mummy. I can't remember how much it was but I know it was the same amount when I was five, as it was when I was eighteen!! He once suggested that his M.B.E. really stood for "More Bloody Energy" – well Mummy deserved a dozen of them for the times she processed that Letter Service on her own!!
Many years later I managed to get nominated to write a Charity Newsletter every month. I did it for 12 years – Mummy never came to visit me at that particular time – I can't think why!! The only advantage I had was a photocopier instead of a Roneo. Every month I would put on my rubber thumb and be transported back in time to my perfectly normal childhood!!

が、周囲の者は笑って誰も信じませんでした。しかし、それ以降、彼は1本もタバコを口にしませんでしたし、タバコが恋しいとも言いませんでした。彼の決心は本当だったのです！

もともと私はバレエの訓練を受けていましたが、ボールルーム・ダンスはとてもリラックス出来るし、すごく楽しかったので、時間がある時に踊っていました。

プロのバレエダンサーとして初めての1シーズンを終えてみると、自分には体力的にも時間的にも過酷過ぎると分かりました。そんな時、ボールルーム・ダンスが私に手招きしたのです！　南アフリカでのボールルーム教師募集の広告を目にしたのです。さっそく応募すると、しばらくしてアレックス・ムーア氏のスタジオで（キングストン・アポン・テムズにある）彼の面接を受けて欲しいとの知らせが届きました。それで、すぐに飛んで行ったの！

面接中、私は彼からあるお願いをされました。「とても大事な用事が明日の夜に入ってしまったので、私のクラスを代わりに受け持ってくれないか？」と言うのです。もちろん喜んで引き受けました。そしてさらに彼はこんな事を言ったのです。「その用事に行くために、君の車を貸して欲しい」って。開いた口が塞がらない私を見て、彼は「イエス」と思ったみたい。

次の日の夜、私は受け持ったばかりのアレックスの生徒たちと共に、自宅に帰るバスの中にいました。そのバスの中で、私は彼の大事な用事と言うのがスヌーカー（賭け玉突き）の試合だったと知ったのです。しかも私の車で!?　そして私はバス??　そこまでしてする彼の熱意は到底理解できませんでした。でもその後、アレックス流のお詫びとお礼に、私をサヴォイ・ホテルのディナー・ダンスに誘ってくれたのです。結局私は、南アフリカではなくキングストン・アポン・テムズに行ったわけね。

アレックスと私が一緒に競技会に出ていたというような記事をたくさん見かけますが、

彼は私と出会うずっと前に競技選手をリタイアしていました。でも、私たちはデモンストレーターとして踊り、二人が良いチームだということを知りました。アレックスとのダンスは、まるで昔から踊っていたように自然でした。もっとも、私と同じように感じ、私と同じくらい上手に踊れた女性はたくさんいたとは思いますが、なんと言っても私には、秘密兵器があったのです！　アレックスに出会った頃、彼はすでにレター・サービスを始めていたので、間もなくして、私にロネオの複写機と指サックとホッチキスの魅力を紹介してくれました。彼は、私がロネオで発揮した才能、無駄のないホチキス技術、レター・サービスを折りたたんで封筒に入れる軽快なスピードに感激したのです。さらに彼は、指サックをはめた私の指が世界中の誰の指よりも高速で用紙を処理するのを発見したのです。それで決まり――プロポーズしてきたの！

アレックスとの話は尽きませんが、思い出を振り返ることが出来、大変楽しかったです。ボールルーム・ダンスはアレックスの人生そのものでした。ボールルームとアレックスは、互いに素晴らしい影響を与え合いました。私たち女性は陶磁器の次でも、カードゲームの次でも、スヌーカーの次でも構わないわ！

父、アレックス・ムーアを語る

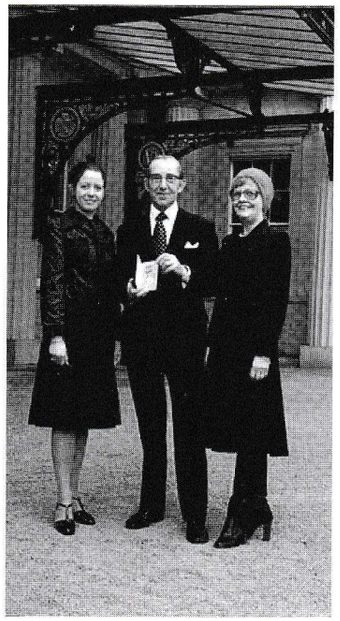
パット・ホープ（Pat Hope）

お父さんの背中には大きなホクロがある。（読むのをやめないで。もう少し読んでもらえれば分かるから！）でも大きくなってから、どのお父さんの背中にもホクロがある訳じゃないと知って子供はショックだった、という話なのですが、私にも似たような経験があります。

全寮制の学校に入ってたくさんの〝普通〟の人たちと過ごすようになるまで、私は世の中のお父さんは、しょっちゅう真っ昼間からイブニング・ドレスを着だし、夜になると出かけて行くのだとか、月に1度ダイニング・テーブルで古いタイプライターをエンドレスに打ち続け、急に奥さんとリビングで踊ったかと思ったら、またタイプライターに戻る――そんなことをしているのだと思っていました。それから、人々がツイストしたり、グルグル回ったりしてフロアで何時間も踊っている所に小さな女の子が行くことも、お父さんがTVに映る日は夜遅くまで起きていていいのも、普通のことだと思っていたんです。

私が覚えている父の姿は、月に一度タイプライターをバチバチ打っているという印象だけで、あまり一緒に過ごした記憶はありません。確か、パスポートは有効期限がくる前にスタンプで一杯になってしまい、いつも2冊目になっていました！

いずれにせよ、月に一度のタイプライター打ちが終わると、3日ほどいなくなるのが父の決まりでした。そして、父がいなくなったそこからが本当の仕事の始まりなのです。まず、キッチンは巨大な機械に占領され、そこから吐き出される何百枚もの印刷用紙が、これまたリビングを占領している巨大な架台式テーブルの上に8つの束に分けられて山積みにされます。ここから、指サックをはめた母の魔法の指の出番です。8つの紙の山は何時間かすると8枚のニュース・レターの巨大な山に変わるのです。この作業が終わると、8枚を整えてホチキス止めする作業が始まります。私がテーブルに手が届くまで成長すると、直ちにこの工程の一員に加わることを許可されましたので、生まれた時からこの作業をやっていたと言っても過言ではありません。



失敗したホチキスの針は、アレックスに見つからないようゴミ箱の底に隠したものです。折り畳まれたニュース・レターは、順次、椅子と椅子の間に綺麗に並べられ、それをクッションをよけたソファー・セットで上から圧縮していきます。全てのニュース・レターが畳み終わる頃には、初めに折ったものが良い具合にペタンコになっていて、封筒に入れるのがとても楽でした。封をし終わった物は国別に分け、決められた数ごとに紐で束ね、郵便屋さんが来るまで廊下に並べておきます。そんな頃になると、アレックスが帰ってくる

03

devoted his life to the advancement of the Ballroom Dancing Teacher.

But we would also like to add some more personal memories of Alex, contributed by his wife Pat, and his daughter Patricia –

PAT MOORE (nee Kilpatrick) 02

As we are sure that everyone must have read nearly everything about Alex over the years, we wondered if we might share some reminiscences that might not be so widely known. If some of our reminiscences make it sound as though Alex was a touch frugal with his money – well, perhaps he was – but he would never have seen a friend in trouble.as most of you know, Alex started his business life as an accountant. He then discovered that he could make five times more money in Ballroom Dancing. His other great love was antique china, and he would sometimes be asked if he would rather have china than money for an overseas job. This he would readily agree to. You were, of course, supposed to pay import duty on items over a certain amount brought into the UK. The most beautiful piece of china was given to him for a particular job, and he got stopped at the airport. "Duty?" says Alex, "I don't even want the thing – you keep it!" He got away with it – of course!

Although Alex was thrilled with his MBE, his four Carl Alan Awards meant that much more to him, because they were awarded to him by the people actually in the profession.

When Alex was working in South Africa one year, a teacher asked him if he would write to him to keep him up to date with Ballroom events in Great Britain. This gave him the idea of the Letter Service; he advised it to see what the reaction would be, and soon had enough members to make it a viable proposition. He never missed publishing a single copy of the Letter Service. During the war his father was not very well, and he always took a turn for the worse about Letter Service time, so that Alex could be granted compassionate leave! After a year Alex was, himself, invalided out of the services – because of bad feet!

Our honeymoon was to be spent in Brighton – a whole five days before we had to be back to work. I did not know Alex had not booked a hotel – it was April, there would be plenty of room! Unfortunately, a very important football match was taking place, and every hotel was full. He ended up at the Police Station and told them that he had a feeling this his marriage was only going to last one day unless they could help! We spent a lovely honeymoon in an old people's residential hotel, much to the joy of the residents who had forgotten what confetti looked like!

Alex smoked – he smoked a lot; he reckoned he only used one match a day, shared around to light the first cigarette, and then lit all the others from the one that was just going out. When we were demonstrating, we took turns to drive each way, and the passenger lit both our cigarettes. We were running short one night and stopped at a small shop to replenish supplies. Two hundred at a time we would buy – a big order for a little shop. When Alex came back to the car he looked puzzled, and said that the shopkeeper had asked if he was sure that would be enough. I turned round to look at him – he still had the two cigarettes that he had been about to light in his mouth.

In his seventies Alex caught Asian Flu. "I think I'll give up cigarette", he said. He told everyone he knew that he was giving up – Much laughter. But he never smoked another cigarette and he said he never missed them – I am sure that it was true – Alex had decided!

We could go on and on, and have thoroughly enjoyed our trip down memory lane! Ballroom Dancing was the great love of Alex's life, and I think that they did a tremendous lot for each other. Us girls were happy to take second-place to the china, the cards, the snooker and … so on!

I originally trained as a ballet dancer, and did Ballroom in my spare time, because I found it very relaxing and great fun.

After one season as a professional ballet dancer, I decided that it was too much like hard work and full time hard work at that!! Ballroom dancing beckoned to me!!

I saw an advertisement for a Ballroom Dancing teacher to work in South Africa, and applied for the job. In due course a letter came asking me if I could go to Kingston-on-Thames to be interviewed by a Mr Alex Moore at his studio. Off I went!! During the interview he asked me if I could do him a favour. He had a very important engagement the next evening and would I be able to take the class that he had booked? I replied that I would be delighted to. He then asked if he could borrow my car to go to his very important engagement. I think my mouth fell open, and he took that as a "Yes"!!

The next evening I found myself travelling home on the bus with some of his pupils that I had just coached. They were giggling about how wonderful Alex was, and how he had smiled at one of them –

CRYSTAL CLOVER
LONDON

日本初登場！

クリスタル
クローバー
コレクション

フリンジ・ドレス
¥25,200税込／取扱色：全5色
取扱サイズ：SM／ML

パープル

ESPEN Happydance
PRACTISE-WEAR

ハッピーダンス
コレクション
新作発表

HD-T05 ¥14,910 税込

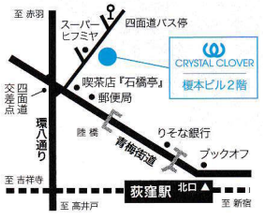
ますます人気沸騰中！

2011年新作生地・続々入荷！
生地・ダンスウェアの無料カタログ請求は東京店へ

Elite エリート コレクション
Collection
エスパン待望の
NEWコレクション

クリスタルクローバーは
競技会場にも特別出店！
エスパン新作も展示

◆ スーパージャパンカップ
3/5(土) 6(日)
幕張メッセ・イベントホール
エスパン・サルバーグ氏も
来店予定!



● JR・地下鉄 荻窪駅北口より徒歩6分
● バス：北口3番乗り場に来るバスで
1つ目の「四面道」停留所下車すぐ

クリスタルクローバー 東京店
TEL 03-6915-1066 FAX 03-6915-1068
〒167-0032 東京都杉並区天沼3-12-10 榎本ビル2階
Eメール tokyo@crystal-clover.com
ウェブ www.crystal-clover.com
東京店ショールーム 営業時間
月〜金 11:00AM〜7:00PM 日曜定休
*土・祝のご来店のご希望はお問い合わせ下さい。
インターネット&通信販売
遠方のお客様には発送にてのご購入・ご試着も可能です

公式ブログ&ツイッター始めました！お買い得&お役立ち情報を続々更新
http://ameblo.jp/crystalclovertokyo/ ツイッター @cryclotokyo

のです！ でも、これを言っておかないとフェアじゃないわね。彼はお手伝いしている私にお小遣いをくれました。いくらだったかは覚えていませんが、5歳から18歳になるまで金額は変わらなかったです！

彼は一度、授与したMBEを文字って、MBEの本当の意味は、「Mもう・B馬鹿にならないくらいの・Eエネルギー」の事じゃないかと話していましたが、そのMBEの殆どは、発送までを一人でやってのけた母の努力の賜物なのです。

何年も後に、私が月に一度のチャリティー新聞を手掛けることになり、それを12年間続けたのですが、どういう訳か母は、発行日が近くなると遊びに来ませんでした。なぜかしら！ 私が母よりも有利だったことと言えば、母の時代に使ったロネオの複写機がコピー機に変わったくらいなのに……。毎月、指サックをはめると、私は完全に〝普通〟だった子供時代に逆戻りしていました！

1. 本を作成する際に使用していた、足型のプレート 2. 女王陛下より授与されたMBEの勲章 3. アレックス・ムーア氏著「ボールルーム・ダンシング」（第5版）

DANCE ICONS

WHO Alex Moore?

Alex Moore MBE, a man who made a great contribution to the Japanese Dance World, is still loved by many dancers through his books such as "Ballroom Dancing" and "Revised Technique", and also for giving his name to the Alex Moore Championship competition since 1978. In 1982, Alex Moore's MLS (Monthly Letter Service) was taken over by Hearn & Spencer Ltd., the company co-founded by Geoffrey Hearn and Peggy Spencer MBE; currently known as DSI. They renamed MLS as "The Letter Service" and continued until 2004. After 2004, the name was changed again to "Choreographer" and it finally closed down in 2008. This wonderful letter service was loved by many dancers worldwide.
The articles shown here are the parts of the reproduction of issue No.1 "The Letter Service" published in October 1982. Lovely memories of Alex Moore…

ALEX MOORE MBE 01

Reproduced from Issue No.1 "The Letter Service" October 1982

It was in1932 that Alex first met Pat Kilpatrick. It was also in that year he was elected President of the National Association, and on the same day he was elected to serve on the Ballroom Branch Committee of the Imperial Society. This was eventually held over until he served his year as President of the NATD. Again in 1932 he toured South Africa and it was while he was there he received many complaints that the teachers had difficulty in keeping up-to date. His fertile brain got working. That was the birth of his Monthly Letter Service, and from that humble beginning the Letter Service has achieved a world-wide membership; it is translated into Japanese, Chinese, Italian and German.

In 1935 he wrote his book "Ballroom Dancing" and up to date over a quarter of a million copies have been sold. For a number of years he held an annual Refresher Course in Manchester, with an average attendance of 200 each year. In 1937 he found time to marry Pat and from then onwards it was a continual round of demonstrations, lectures and congresses in England, Holland, Denmark, Norway, Germany, Austria, France and other countries, and for several years they did a series of TV dancing lessons from Alexandra Palace, London.
Alex had the honour to captain the English Team for over 25 years when visiting Denmark. They were most enjoyable visits and on one occasion he was made a Knight of Tuborg. He was also given the Carl Alan Award for the teacher and person who did most for Ballroom Dancing, and in 1947 was elected Chairman of the Ballroom Branch Committee of the ISTD. 1948 was another eventful year, with the first World Congress in Blackpool. It was at this Congress that Alex proposed the formation of the International Council of Ballroom Dancing, and after a great deal of work it came into being at Edinburgh in 1951 – nearly 21 years later he was elected President. In 1959 Alex went on a private tour to America to lecture on the English style. In 1960 the first Associate Examination was held; again his fertile brain saw a great future. Through the publicity he was able to give in the page of his Monthly Letter Service, a tour was arranged in 1961, when a large number of examinations were conducted. These successful tours eventually led to the formation of the USA Imperial Branch.
In 1976 Alex was honoured by The Queen when he was awarded the MBE for his service to Ballroom Dancing. A fitting tribute indeed to a man who has